



ママといっしょに
にらめっこ



たんじょうび
おめでとう

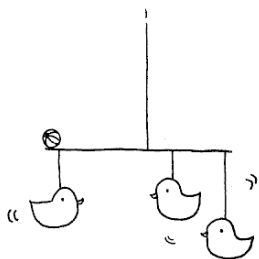


うどんづくり

げんき
えがお
いっばい
いっばい

も く じ

はじめに	2
こころ、だいじょうぶ	4
新生児聴覚スクリーニング検査について	7
Q1.新生児聴覚スクリーニング検査とは?	7
Q2.なぜ新生児期にこのような検査をするのですか?	10
Q3.精密検査はどこで、どんな検査をするのですか?	13
子育てについて	15
Q4.どんなことに気をつければいいのですか?	15
おわりに、そしてスタートへ	19
資料	20
1. 聴覚言語発達リスト (田中・進藤)	20
2. リファラーといわれたときに相談できる機関	22



は じ め に

赤ちゃんのお誕生を心からお祝い申し上げます。本当におめでとうございます。

お母さんのおなかの中で慈しみ、育いづくまれた赤ちゃんは、外界に出てさぞかし驚はぐくいていることでしょう。

その第一声が「おぎゃあ」という産声うぶごえでした。産声を耳にしてママもパパも「生まれた！ 新しい家族の誕生だ」と心が浮き立つ思いだったことでしょう。

産湯うぶゆを使い、白い産着うぶぎに包まれた赤ちゃんは、はにかんだ表情でお母さんの横に寝かせてられています。小さな、小さな口でおっぱいを吸い、あくびをし、小さな手足を伸ばして一人前に伸びをして見せます。

小さな体で与えられた命いのちの営いとなみを始めた赤ちゃん。「こんにちは 赤ちゃん、わたしがママよ」と思わず声をかけてしまいました。

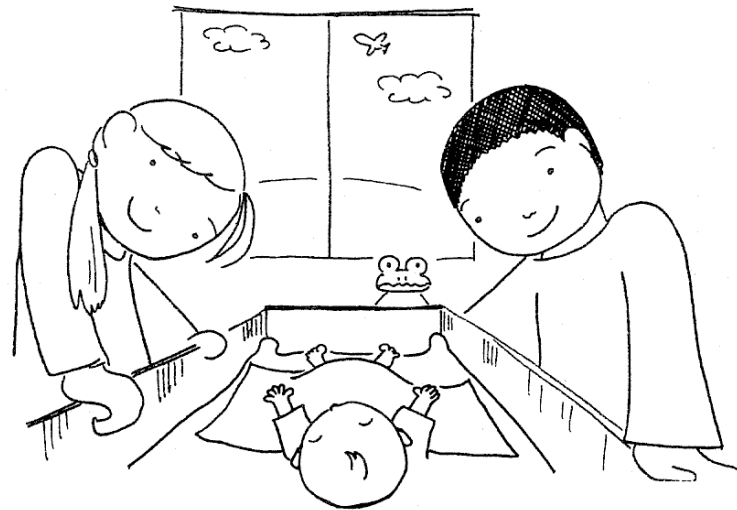
私たちがこうして誕生し、両親に大切に育てられたのだと改めて思いをめぐらせます。わが子の誕生は、人として新しい命を預けられた責任も感じます。そしてまた命いのちを育はぐくんでいく、子育てという長くて遠い道のりで与えられるであろう楽しみや幸福感に胸が高鳴ります。

おっぱいを飲ませながら、あるいはかすかな寝息を立てて寝ている赤ちゃんの顔をご両親で見つめながら、「パパに似てるかしら？」「ママに似てるかな？」「将来どんなふうに育っていくのかしら？」「きっと大物になるよ」などと赤ちゃんに対する大きな夢と希望で思わず笑みをこぼしてしまわれたことでしょう。

そんなときに、お医者様から「耳がきこえないかもしれません」と新生児聴覚スクリーニング検査結果のリファア（要再検査）を知らされたのは、本当にショックでした。頭の中が真っ白になってしまわれた方もおいででしょう。「なぜ、なぜ、私の赤ちゃんが？」と？（はてな）マークが頭の中を駆け巡り、「夢ではないか？ いやきっと夢を見ているのだ」と思おうとされたことでしょう。

でも赤ちゃんはそんなことを何も知らずにおっぱいを飲んで、泣いて、笑っています。赤ちゃんはママを頼り、ママの温かい胸ほっを欲し、ママやパパの優しい笑顔を待っています。

さあ、ちょっと深呼吸をしてこの本のページをめくってみてください。



こころ、だいじょうぶ

赤ちゃんがきこえていないかもしれないと知らされたお母さん・お父さんは、今、容易にはことばにできないくらい複雑な思いのなかにいらっしやることと思います。

信じられない 嘘でしょう?!
どういうことなの?
どうすればいいの? 誰か教えて.....
わたしが悪かったの?
ぼくが何をしたと言うのだ?!
とても笑顔になれない
知りたくなどなかった
まわりのお母さんたちがうらやましい
神さま、お願いですから.....

どんな感情や考えも、どうかあなたの正直な気持ちとして認めてあげてください。

たとえ、それがとても否定的な内容であったとしても——。赤ちゃんとの長いつきあい、「ありのまま」から始めてください。親だからといって、最初から、わが子にすてきな感情ばかり抱けるとは限りません。

そういう人もいるし、そうでない人もいます。

大切なのは、感情を責めないこと、感情に嘘をつかせないこと。どんなに否定的な思いであっても、認めてもらえれば、心のなかに居場所を得ます。居場所を得て落ち着けば、感情が勝手に暴れだすことはありません。

赤ちゃんとのコミュニケーションの始まりは、感情に彩られた「心の状態」のキャッチボール。

お母さん・お父さんの気持ちが、身体しんたいの弛緩や表情をとおして、赤ちゃんの身体からだと心に伝わっていきます。



ふんわりと温かな心の状態は、赤ちゃんに「ママも、パパも、あなたも、だいじょうぶよ」というメッセージを伝えます。

赤ちゃんの身体も柔らかくなって、満足げな微笑を返してくれることでしょう。

赤ちゃんと一番長い時間を共にする人がお母さんだとすれば、お母さんの心を守ることが一番大切。

最強のサポーターはお父さん。

それから、おじいちゃんやおばあちゃん。

どうか、お母さんを励ましすぎないでください。

お説教は禁物です。

知識も大事ですが、頭だけの理解は、いつしか心に負担をかけます。

お母さんの瞳が曇らぬ思いで赤ちゃんを見つめ、お母さんの心と赤ちゃんの心が会おうまで、しばらく時間が必要かもしれません。それまでは、お母さんが頑張りすぎないように、どうぞ見守ってあげてください。

精密検査を待つ数ヶ月、赤ちゃんは驚くほどの能力を発揮してくれます。

チラチラ揺れる木漏れ日を、興味深く見つめます。

大人の表情を真似て、小さな舌をちょっと不器用に突き出します。振ってもらった玩具に向かって、手や腕、おなかや足まで動きま

す。日に日に成長していく赤ちゃんを観察できたら、発見の一つひとつを「すごいなあ！」とほめてあげてください。

それから、そんな発見のできたご自身を「たいしたものだ」と誇らしく感じてください。

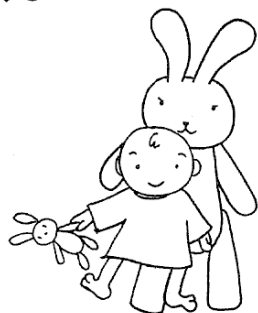
ママやパパのうれしい笑顔が、赤ちゃんに喜びを伝えます。

「自分は人に喜びを与える存在なのだ」と、知ることから始まる人生はすてきです。

伝えられる、
受けとめてもらえる、
分かち合える。

そうした実感から、「人とかかわる能力」が発達していきます。ですから、さまざまなやりとりを、全身で楽しみたいですね。

ママのころ、パパのころ、赤ちゃんのころ、
だいじょうぶ、だいじょうぶ、だいじょうぶ！

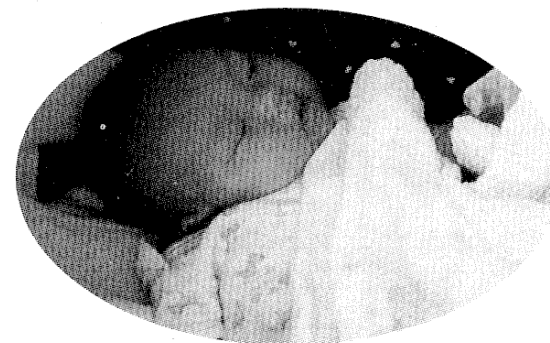


新生児聴覚スクリーニング検査について

Q1. 新生児聴覚スクリーニング検査とはどんな検査ですか？

この検査を受けられる前にお聞きになってたと思いますが、もういちど、検査についてお話ししておきましょう。

この検査は、赤ちゃんが生後2日頃～退院までに行う検査で、眠っている赤ちゃんに35dB（デシベル）とか40dBのささやき声程度の音を聞かせ、その反応を調べます。検査にかかる時間は数分から10分程度で、結果をコンピューターが判断して、「パス（＝反応あり。今のところ聞こえにくさはない）」または「リファア（＝反応なしまたは反応不明で、もう一度詳しい検査が必要）」（要再検査）で表示します。



検査は、赤ちゃんが眠っている間に行います

今は大きく分けて2種類の検査機器、自動ABR（自動聴性脳幹反応）と自動OAE（単にOAEとも言う。耳音響放射）が使われています。

自動 ABR で検査してリファーとなった場合、耳鼻科に行って診察・精密検査を受けることになりますが、自動 OAE で検査してリファーとなった場合は、耳鼻科での診察・精密検査の前に自動 ABR でもう一度検査をすることもあります。それは、自動 OAE での検査が、機器の性質上、耳あかや羊水の影響で自動 ABR に比べてリファーが出やすい傾向にあるためです。そしてこの自動 ABR でもやはりリファーとなった場合は、耳鼻科での診察・精密検査を受けることになります。

*dB(デシベル)というのは、音の大きさを表す単位で、正常な人の聞こえる最小の音を 0dB とし、数字が大きくなるにつれて大きな音を表していきます。35dB というのは、ささやき声くらいの小さな音で、家庭など比較的静かな場所での会話では 50~60dB くらいです。電車のガード下くらいの騒音なら 100dB、ジェット機のエンジン音など普通の人なら耳をふさぐような強音なら 120dB くらいです。



***自動 ABR(自動聴性脳幹反応)**

赤ちゃんにヘッドホンのようなイヤークラから音を聞かせ、その反応を脳波で調べるタイプの検査機器です。最初に 35dB の音で検査をして、反応が得られなければ再度 35dB 又は 40dB・70dB での再検査を行い、なおかつ反応が得られない場合には耳鼻科での精密検査を受けることになります。



(写真・アトムメディカル提供)

***自動 OAE(耳音響放射)**

赤ちゃんにイヤホンから小さな音を聞かせ、耳の中から反射してくる音を測定するタイプの機器です。この検査で反応があればほぼ 40dB の音が聞こえていることになります。DPOAE (歪成分耳音響放射) と TEOAE(誘発耳音響放射)の二つのタイプがあります。



(写真・持田シーメンスメディカル提供)



(写真・オーティコン提供)

***MAAS**

自動 ABR と OAE の機能をもつ機器です。



(写真・日本光電提供)

***ASSR(聴性定常誘発反応)**

再検査などに用いられ、周波数ごとの聴力を測定します。



(写真・リオン提供)

Q2. なぜ、新生児期にこのような検査をするのですか？

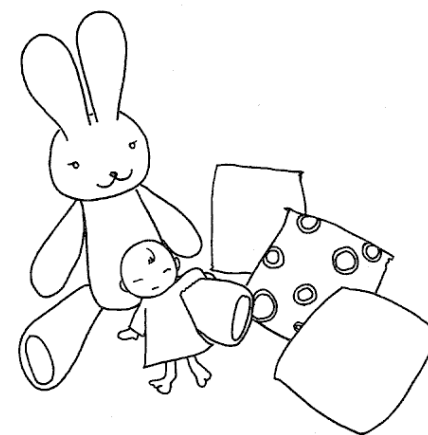
まず、聴覚障害には、先天性(生まれつき)のものだけではなく、進行性や後発性のものがあることを覚えておいてください。例えばおたふくかぜや髄膜炎ずいまくえんなどが原因で、新生児期には聞こえていても、のちに聞こえなくなるということもあります。ですから、新生児期のスクリーニング検査でのパスは、「今のところ聞こえにくさはない」という意味であり、「これからもずっと聴覚障害はない」という意味ではありません。

それに対して、リファア（要再検査・要精密検査）というのは、「もう一度検査が必要」とか「詳しい検査が必要」という意味で、まだ聴覚障害と決まったわけではなく、「今のところ、35dBという小さな音や70dBという少し大きめの音にあなたの赤ちゃんは反応していませんよ」という意味なのです。また新生児期には音への反応が弱く、聞こえていないかもしれないと思われるお子さんでも、何ヶ月もたって成長してから反応がはっきりしてくる場合もあります。早産や低体重で生まれたお子さんや発達障害（ダウン症など）を伴っていたりするとこうしたことが生じることもあります。

いずれにしろ、新生児聴覚スクリーニングとは、その時点での赤ちゃんの聞こえを簡単にふるいわけ（＝スクリーニングする）だけのものですから、何らかのケアが必要な聴覚障害のある赤ちゃんかどうかは、そのあと、音への反応が確かになってくる生後3～4ヶ月頃でのABRやその他の聴力検査をするまでは、正確にはわからないのです。

そうすると、きっとこう思われるでしょう。「3～4ヶ月くらいまで正確にわからないのだったら、そのときに調べればよいのではないか。なにも新生児期に検査する必要はないのではないか？」

確かにそのとおりです。本当は、3～4ヶ月頃に最初に検査をすればよいのですが、ご存知のように、3～4ヶ月頃の赤ちゃんは目覚めている時間が長くなり、手足を活発に動かすことも多くなるために、なかなかこのような検査ができないのです。また、聞こえの状態を調べるために改めて病院に行って検査を受けるのも大変なことです。そこで開発されたのが、赤ちゃんが入院中で、自然に眠っている新生児期にできる検査でした。



では、聴覚障害を早くに発見するのは何のためなのでしょう？それは、人間のことばの獲得と発達に関係しています。

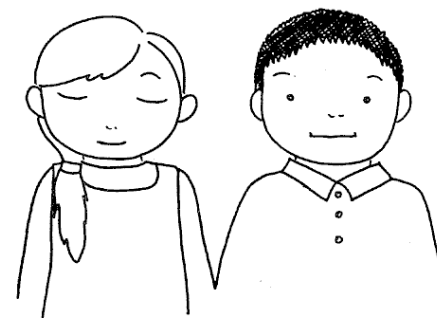
聞こえる人にとっては音声言語（日本人であれば音声日本語）が自分のことばですが、聞こえない人の中には手話言語を自分のことばとしている人たちもいます。でも、どのような言語であるかを問わず、一般的には（ということは個人差があるのですが）、「バババ…」とか「ダダダ…」といった喃語なんご（規準喃語）は0歳後半から出始め、（声ではなく手が動く手話喃語なんごというのもあります）、片言のことばが出るのは1歳以降、「○○ちゃん、おはしを持ってき

て」などのことばを理解し、「ママ、イコウ」などの2語文を話すようになるのは1歳半くらいからでしょう。ことばを獲得する道すじはどのような言語でも基本的には共通しており、言語獲得のための適切な時期（適期）があるのです。しかし、これまでは、聴覚障害の発見が3歳とか4歳というように遅くなり、そのために年齢に応じたことばの獲得を逸してきた子どもたちがいました。そのような子どもたちをできる限りなくしたい、というのが早期発見の本来の目的なのです。

ただ、そのために、リファアを告げられたお母さんや家族の方に必要以上に不安や心配を与えることになってしまったのも事実です。聴覚障害があるかないかわからないのに、リファアと言われたおかげで「聞こえていなかったらどうしよう？」「聞こえていなかったらどのように育っていくのだろうか？」と先々のことが心配になる方は少なくありません。長い妊娠期間を終え、やっと待望の赤ちゃんを胸に抱いたばかりの時期、我が家に初めて赤ちゃんを迎え入れ、これから新しい家族として一步を踏み出すスタートのときに、大きな不安が目の前にぶら下がっていることは、本当に辛いことだと思います。

では、きちんとした診断がつくまでにまだ時間がかかるとしたらいったいこの時期どうすればよいのでしょうか。お母さんにできることはなんなのでしょうか。そのことについては、この本の「子育てについて」をぜひご覧ください。聞こえていてもいなくても、子育ての基本は同じであることが理解していただけるでしょう。

そして、お母さんの気持ちが安定していただけるようにまわりの家族の方もさまざまな手助けをしてあげてください。とくにお父さんは、ぜひしっかりとお母さんを支えてあげてください。赤ちゃんをつれてお母さん一人で病院に行くことはとても大変なことです。一緒に通院したり、早めに帰って様子を聞いたり、それぞれのご家庭でできる限りの協力をしてあげてください。



また住んでおられる地域の保健所の保健師さんなどからも子育てについて可能なかぎりサポートを受けられるとよいと思いますので、ぜひ保健所に連絡をとってみてください。そうした周囲のサポートがなかなか受けられないときは、巻末にあげた機関（22～24ページ）に相談してみてください。

Q3. 精密検査はどこで受ければよいのですか？ また、どんな検査をするのですか？

出産した産科や小児科でリファアとなり、そのあとに行う検査は、耳鼻科でのABR（聴性脳幹反応）という検査です（自動ABRとは異なる精密検査です）。そこでは、睡眠剤を使って赤ちゃんを眠らせて脳波の反応を調べます。産婦人科で行う検査よりも大がかりで、専門の検査技師や検査結果をきちんと診断できる耳鼻科医も必要です。その検査で反応が出てパスとなることもありますし、反応が出ないで、さらに間隔をおいて再検査となることもあります。しかし、聴覚障害があるかどうかの判断は、からだは成長して首がすわり、さまざまな音刺激に赤ちゃんなりに反応が出てくる生後3～4ヶ月頃にならないと、なかなか正確な診断ができないことが多いのです。また、ABRで反応が出なくて、1歳くらいでやっと反応が出てくる発達のゆっくりなお子さんもときにはいます。

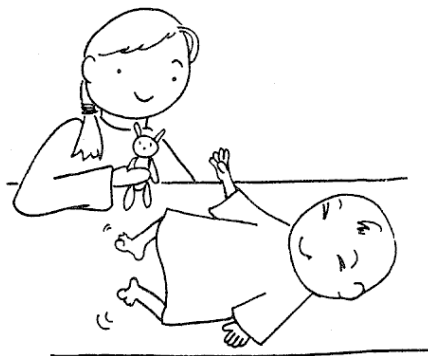
では、精密検査機関（耳鼻科）では、どのような検査が行われるのでしょうか。一つは、今話したようなABR（聴性脳幹反応）という機器による検査です。睡眠剤を用いますので、だいたい生後3～4ヶ月に行われることが多いようですが、予想される聴力の程度がどのくらいかとか、両耳か片耳かなどの身体的な条件によって検査時期がこの時期より早かったり遅かったりすることもあります。

二つ目は、月齢相当の聴性行動反応検査（BOA）です。これは、診察室や検査室で行われる行動観察で、赤ちゃんの背後から楽器やスピーカーの検査音などを聞かせ、目を動かす、ビクッとすることなどの反応（聴性反応）を手がかりに聴力を測ります。

三つ目は、家庭での音への反応についての問診です。『聴覚言語発達リスト』（20・21ページ）などでふだんの様子を観察して記録しておかれると、診断の際の資料となるでしょう。

お子さんの聴力の状態は、今述べたような検査や観察から耳鼻科医によって総合的に診断されることとなりますが、もしお近くに小児難聴を専門とする耳鼻科医のいる精密検査機関があるのでしたら、ぜひそちらを紹介していただくとよいでしょう。

詳細はスクリーニング検査を受けられた病院にお聞きになるのがいちばんだと思いますが、もしそれでもうまく情報が得られない場合は、巻末にあげた機関に問い合わせてみてください。親身になって相談に乗ってくれるでしょう。



子育てについて

Q4. どんなことに気をつけて子育てをすればいいのですか？

リファ（要再検査・要精密検査）ということの意味は分かったけれど、では赤ちゃんをどう育てたらいいか、精密検査がまだ少し先のことだとしたら、それまで何をしたらいいか分からない、というご両親も多いかと思います。けれど、何か特別なことをやる必要はありません。子育ての基本は、どんなお子さんでも同じだからです。

お兄ちゃん・お姉ちゃんを育てられたご両親ならば、こう聞くと「ああ、上の子と同じなんだ」と分かることでしょう。けれど、初めてのお子さんを授かったご両親は、これから自分の子供を通して経験していくことなので、分からないかもしれません。そこで、これから、子育てをする上で基本的に大切なことについてお話ししようと思います。



① 赤ちゃんの世話をし保護すること

人間の赤ちゃんは、他の動物の赤ちゃんと同じで、自分から動いて母親の所に行き、お乳を飲んだりするような能動的な関わりはできません。泣くことで誰かを呼び、「おなかがすいた」「何か気持ち悪い」と訴えるだけです。そこで、母親はおっぱいをやったり、お

むつを替えたり、抱っこして寝かせつけたりするわけです。後、赤ちゃんはすやすや寝ているだけです。このように赤ちゃんは、寝ること・泣くこと・飲むことが大半です。従って、その世話をして保護することが育児の中心になります。でも、これらの世話が大変なんですよね。新米ママは、きっとヘトヘトになっていることでしょう。自分一人でゆっくり眠りたいと思っているかもしれません。子育て経験者の殆どの方は、みんな同じ気持ちだったと思います。まず、この大変さが育児の内容です。

② 赤ちゃんを知りましょう

赤ちゃんは泣くことが、自分の気持ちをあらわす手段です。その気持ちを分かってあげるのが、世話をする者の役割です。どうして泣いているのか、どうしてぐずっているのか、泣き方・ぐずり方・表情の違いが、世話しているうちにだんだんと分かってくることでしょう。

③ 赤ちゃんの欲求を満足させ、快い気持ちにさせましょう

赤ちゃんが泣いたら、「どうしたの？」
「おなかがすいたの？」「おしっこかな？」
等と話しかけ、その時の欲求に^{よづききゆう}応えながら
「すっきりしたね」「もうおなかいっぱいになったかな」等、一人二役で話しましょう。同時に、抱っこしたり、ほおずりしたり、リズムカルにゆすったり、トントンと軽くたたく等のスキンシップをたくさんして、快い気持ちを体験させましょう。すると、赤ちゃんも「心地^{こころ}いいよ」と、^{ほほえ}微笑みを徐々に返してくれることでしょう。



④ 穏やかな愛情たっぷりの笑顔で育てましょう

いかがですか？①～③の子育てをしていると、最初は大変さだけのようでしたが、だんだん我が子がかわいいと思い、眠っていてもあくびを^{ほほえ}も、ましてや笑ったりしたら、^{ほほえ}見ているだけで微笑みたくなるのではないですか。赤ちゃんはご両親の愛情をいっぱい受け、ご両親の笑顔を見て幸せな気持ちで育つことで、心を安定させ、まわりの人からの働きかけを受け止められるのです。

⑤ 通じたという体験をたくさんさせましょう

赤ちゃんは、2ヶ月頃になると、母親のいろいろな働きかけ（話しかけ・抱っこ・あやす・見る・ベビーサイン等々）に、じっと見返したり、「アー」とか「クック」とか、まるでお話しするように声を出したりします。そんな時、目と目を合わせて、赤ちゃんと同じように声を出したりして、「分かったよ」ということを伝えてあげましょう。そして、お母さんがそんな赤ちゃんを見て感じた気持ち（かわいさ・喜び等）を自分らしい表現（例えば、キスをしたり、ほおずりする等）をふんだんに使って、赤ちゃんに示しましょう。このやりとりがコミュニケーション発達の土台になります。

※ ベビーサインとは、赤ちゃんとお話しする時に使う、簡単な身振りや表情のことです。例えば、哺乳瓶^{びん}を持つ動作で“ミルク”のサイン、おむつの前をトントンとたたいて“おむつを替える”のサイン、バイバイと手を振るのもサインの一つです。

※ 『ベビーサイン—グーとパーだけで赤ちゃんとお話—』

近藤偵子著 毎日出版社 1200円(税込)

『ベビーサイン—まだ話せない赤ちゃんとお話のために—』

リンダ・アクレドロほか著 (たきざわあき訳)

こみち^{こみち}書房 1365円(税込)

⑥ 一人で悩むのはやめましょう

いつも笑顔の穏やかな気持ちで、楽しく育てたいと思っても、いつもそのようにできるとは限りません。疲れている時もあるでしょう。やはり心配になってしまう時もあるでしょう。そういう時は一人で悩まず、まわりの人や専門家に援助を求めましょう。赤ちゃんはご両親だけで育てなければいけないものではありません。また、ご両親の力だけでは育たない面もあるのです。話を聞いてもらうだけでも、考えが整理できて落ち着くものです。遠慮なく声をかけて、援助してもらいましょう。

⑦ お兄ちゃん・お姉ちゃんにも配慮が必要です

赤ちゃんにお兄ちゃん・お姉ちゃんがいる場合、小さな家族が増えたという喜びと同時に、自分への注目が減ってしまったというさびしさがあることと思います。そこへさらに、聞こえないかもしれないということでご両親が心配そうにしていたり、病院や相談に行くことで忙しそうにしていると、お兄ちゃん・お姉ちゃんが不安定になってしまうことがあります。小さなお兄ちゃん・お姉ちゃんは言葉で表現できない気持ちを、甘えたり、すねたり、ご両親を困らせたりすることで表すかもしれません。大きなお兄ちゃん・お姉ちゃんは、かえって聞き分けよく無理ながまんをしているかもしれません。“あなたも大事な子どもだよ”ということが伝わるように、ことばかけやスキンシップを忘れないようにしてあげてください。



おわりに、そしてスタートへ

この小さな冊子の最後のページまで読んでくださり、ありがとうございます。いかがですか、あなたの抱いていた疑問、不安は少し減ってきましたか？まだまだ分からないこと、知りたいことがある方もいますね。どうぞそういう方は各地の支援機関に連絡したり、紹介したホームページを訪ねてみてください。きっとなんらかの援助が得られ、力になってくれるはずです。

リファーマという結果からその後の耳鼻科専門医での精密検査へと進まれることと思いますが、精密検査後の診断がどうであれ、お子さんがご両親にとり、世界にたった一つの大事な宝物であることには変わりはありません。どうぞ慈しんで可愛がって育てていってください。お子さんの笑顔がきっとご両親の心配や不安、悩みを少しずつ溶かしていつくくれることでしょう。

赤ちゃんはどんどん成長していきます。赤ちゃんとの日々の暮らしの中で、こんなことができた、あんなことができるようになったと、新たな発見があることでしょう。どうぞそうした子育ての喜びに素直に心躍らせてください。

そして赤ちゃんはご両親だけではなく、祖父母、姉、兄などご家族やご親戚の方々、ご近所の方、まわりのさまざまな人たちとの関わりのなかで育っていきます。多くの方々の温かい眼差しに見守られ、笑顔につつまれ、お世話してくれる手のぬくもりを感じながら赤ちゃんは大きくなっていきます。「気持ちいいな、安心できるな」と赤ちゃんが感じられるような育児のスタートとなるように、どうぞまわりの方々もご両親を支えてあげてください。

日々の育児が、喜びと発見と感動に満ちたものとなりますようにお祈りしています。



[資料1]

聴覚言語発達リスト（田中・進藤）

月齢	番号	項目	チェック
0 ヶ月	1	突然の音にびくっとする（モロー反射）	
	2	突然の音にぎゅっと目を閉じる（眼瞼反射）	
	3	眠っている時に突然大きな音がすると目が開く（覚醒反射）	
1 ヶ月	4	突然の音にびくっとして手足を伸ばす	
	5	眠っていて突然の音に眼を覚ますかまたは泣き出す	
	6	目が開いているときに急に大きな音がすると目を閉じる	
	7	泣いている時、または動いているとき、声をかけられると泣き止むか動作を止める	
2 ヶ月	8	近くで声をかけると（またはガラガラを鳴らす）ゆっくり顔を向けることがある	
	9	眠っていて急に鋭い音がすると、ビクッと手を動かしたりまばたきする。	
	10	眠っていて子どもの騒ぐ音や、くしゃみ、時計の音、掃除機などの音に目を覚ます	
3 ヶ月	11	話しかけると、アーとかウーとか声を出して喜ぶ（またはニコニコする）	
	12	眠っていて突然音がするとまぶたをピクッとさせたり指を動かすが、全身がピクッとすることはほとんどない。	
3 ヶ月	13	ラジオの音、テレビの音、コマーシャルなどに顔（または目）を向けることがある。	
	14	怒った声や、やさしい声、歌、音楽などに不安そうな表情をしたり、喜んだり、またはいやがったりする。	

4 ヶ月	15	日常のいろいろな音（玩具、テレビの音、楽器音、戸の開閉など）に関心を示す（振り向く）。	
	16	名前を呼ぶとゆっくりではあるが顔を向ける。	
	17	人の声（特に聞きなれた母親の声）に振り向く。	
	18	不意の音や聞きなれない音、珍しい音にははっきりと顔をむける。	
5 ヶ月	19	耳元に目覚まし時計を近づけると、コチコチという音に振り向く。	
	20	父母や人の声、録音された自分の声など、よく聞き分ける。	
	21	突然の音や声にびっくりして、しがみついたり泣き出したりする。	
6 ヶ月	22	話しかけたり歌をうたってやると、じっと顔を見ている。	
	23	声をかけるとさっと振り向く。	
	24	テレビやラジオの音に敏感に振り向く。	
	25	人に向かって声を出す。	
7 ヶ月	26	となりの部屋の物音や、外の動物のなき声などに振り向く。	
	27	話しかけたり歌をうたってやると、じっと口元を見つめ、ときに声を出して答える。	
	28	テレビのコマーシャルや、番組のテーマ音楽の変わり目にぱっと向く。	
	29	叱った声（メッ！コラッ！など）や、近くで鳴る突然の音に驚く（または泣き出す）。	

[資料2] リファラーといわれたときに相談できる機関

○札幌学院大学心理臨床センター

(〒069-8555 北海道江別市文京台 11・臨床心理士 滝沢広忠)

TEL/FAX 011-386-9794

HP <http://www.sgu.ac.jp/cpc/>

○宮城県難聴児を持つ親の会「けやキッズ」

(〒984-0046 宮城県仙台市若林区二軒茶屋 1-20)

TEL なし FAX 022-223-5397

E-mail hiroyuki_chiba@hotmail.com

○筑波大学附属聾学校乳幼児教育相談「けやきルーム」

(〒272-0827 千葉県市川市国府台 2-2-1)

TEL 047-371-4426 (直通)

TEL 047-371-4138 (幼稚部)

E-mail keyaki@deaf-s.tsukuba.ac.jp

HP <http://www.deaf-s.tsukuba.ac.jp/>

○東京都立大塚ろう学校「きこえとことば」相談支援センター

(〒170-0002 東京都豊島区巢鴨 4-20-8)

TEL/FAX 03-3918-2354 (直通)

TEL 03-3918-3347 (代表)

E-mail info@otsuka-sd.metro.tokyo.jp

HP <http://www.rougakkou.com/>

○新生児聴覚スクリーニング支援ネットワーク

(〒206-0801 東京都稲城市)

E-mail unhs_simp0@yahoo.co.jp

HP http://www.geocities.jp/unhs_simp0/index.html

○愛知県立一宮聾学校「ことばと聞こえの教育相談」

(〒491-0934 愛知県一宮市大和町荻安賀字上西之萩 30)

TEL 0586-45-6000 FAX 0586-43-4462

E-mail sek-adm@ichinomiya-sd.aichi-c.ed.jp

○奈良県立ろう学校早期教育部

(〒639-1122 奈良県大和郡山市丹後庄町 456)

TEL 0743-56-2921 FAX 0743-56-8833

HP <http://www3.ocn.ne.jp/%7enararou/>

○福岡県立久留米聾学校特別支援教育部

(〒839-0852 福岡県久留米市高良内町 2935)

TEL 0942-44-2304 FAX 0942-45-0139

E-mail jimu@fhkurume.fku.ed.jp

HP <http://fhkurume.fku.ed.jp/>



